

男女共同参画だより

No16 平成 24 年 6 月

発行：八千代市

ホームページ：<http://www.city.yachiyo.chiba.jp/siyakusyo/danjo/>
トップページ ≫ くらしのガイド ≫ 男女共同参画

わたしたちが目指す
「男女共同参画社会」

一人ひとりが生きがいのある社会にするために、男女がおたがいにその人権を尊重しつつ、責任を分かちあい、家庭、職場、地域などで十分に能力や個性を発揮できる社会の実現を目指しています。

“好き”を 仕事にする

雑貨の仕事塾主宰
マツドアケミ
(八千代市出身)

「雑貨屋さんになりたい」「ハンドメイド雑貨を販売する雑貨作家になりたい」。

そんな女性の“なりたい！”を応援するセミナーや教材を販売している雑貨の仕事塾主宰のマツドアケミさんに、「好き」を仕事にすることについてお話をうかがいました。



Matsudo Akemi

女性、こころの悩み電話相談

047-485-7333

毎週火・木・金曜日 午前9時～午後4時
(祝日、年末年始【12月27日～1月4日】を除く)
専門の女性相談員がうかがいます

男性のための電話相談

043-285-0231

(お問合せ：千葉県男女共同参画センター 043-252-8036)
毎週火・水曜日 午後4～8時
専門の男性相談員がうかがいます

雑貨の仕事塾を主宰するまで。

私は海外が好きで、外資系の会社に勤めましたが、当時は結婚したら退職する女性が多かったので、いつまでもできる仕事ではないと思ったんです。

私も結婚したら仕事を辞めてもいいと思っていましたが、あるとき「結婚して仕事を辞めたくない、でもいつまでも続けられない」と悩んで「自分探し」をしました。いろいろな人に話を聞いたり、習い事をしたり、先行投資して資格を取ろうとしたりしましたが、いろいろやっている内に、闇雲にやっつけられないと気づきました。

そんなとき本屋で、ヨーロッパやアメリカで使われている雑貨についての本を見つけました。それを見たときに「あれ？ 私、これをやりたいかも」とピンときたんです。

会社を辞めることには悩みましたが、これからはため息つきながら同じ顔をして仕事をしているのかと思ったら嫌だなど、思い切って退職して雑貨屋に修行に出て、販売員、店長を経て、会社本部のバイヤーになりました。

いをしていました。仕事でやりたいことをやりつくしてこの先どうしようかと思っていたときに、それまで雑貨屋を始めたい人のための本がなかったから書いてみたくなりました。

本の出版をきっかけに会社を退職して、雑貨屋を始めたい人のためのセミナーや専門学校の講師をしたり、雑貨屋のプロデュースをしたりしました。

その後ライターになって、自分で営業しに行っただけで、実績がないからなかなか使ってもらえず、ギャラの安い仕事を増やしていききました。ラッキーなことに、毎回取材に行くと、「なんだか面白そうだから、仕事を手伝って」と全部仕事につながって、仕事がたくさんきました。自分では営業がうまいとは思っていなかったけど、その当時は“一人バブル”でしたね(笑)。

その後、雑貨屋のプロデュースをして、今まで増やしてきた自分の中のインプットを提供するために、雑貨屋になりたい人の応援をしたくなり雑貨の仕事塾を主宰しました。

今一番やりたいこと

今一番やりたいことは、雑貨を紹介する番組の動画配信です。スマートフォンも普及してきて、インターネット産業では動画が主力になってきていますから、今一番はやっているメディアを活用して、動画を活用したビジネスモデルを作っていきたいです。

私は、動画サイトの番組で貴族風の衣装を着ていますが、「マツドアケミ」を売るためではなく、作家さんやメーカーの雑貨を紹介して楽しんでみてもらうための衣装なんです。面白いことをやっている注目してもらって、みんなの作品を紹介していきたいと思っています。

「楽しい」ということを一生懸命やる

私はキャリアを積んでいこうと思わず、そ

の時々で好きなことを一生懸命やってきました。働く女性の中には、「キャリアを積もう」と焦ってもがいている人がいるような気がします。

子育てが落ち着いて再就職するときでも、今までのキャリアを盾にとって、就職した先で「楽しいな」と思えることを見つけて、積極的に提案して自分を高めていくことがいいのではないのでしょうか。

自分が「楽しい」ということを見つけて一生懸命やれば、次につながると思うんです。私自身、「雑貨でキャリアを作っていこう」と思っていなかったですが、気がついたら雑貨を通してできた人脈や得た知識があったから、これをどうやって生かして社会に貢献していこうと考えて今があります。誰でも、人生を少し振り返ってみただけでも、セミナーの講師になれるくらいドラマがあります。今向いている方向が正面だけだとしたら、横や



Cafe PicNic

マツドさんが、取材した勝田台の Cafe PicNic。セミナーの会場になることも。

下を向いてみたら発見があります。通勤が辛いと思っても、例えば「満員電車を楽しむ方法」を見つけられたらその人はすごいと思います。いい資格を持つことやキャリアアップすることだけを考えるのではなく、自分の人生そのものの中の些細なドラマに気づく心の感度を高めることが大切なんだと思います。

向上心を忘れない

私は、「もっと何かできないかな」と常に自分を見直しています。自分だけで考えるのではなく、人に話してみるのもいいですね。

お金が無いからセミナーに行かないという人がいますが、それは優先順位が逆。セミナーに行ってみたら、お金が倍になって戻ってくるかもしれないし、気づかなかったことに気づくかもしれないと考えることが大切です。私も今はセミナーの講師をする立場ですが、相変わらず興味のあるセミナーには参加して、新しい発見がありますよ。



daibeam.inc

東日本大震災で被災された女性にシュシュを送る「ハッピーシュシュプロジェクト」(マツドさんと数店の雑貨屋発案)に協力した勝田台の雑貨屋 daibeam.inc。かわいい手作り雑貨が並びます。



マツドアケミ

有限会社 Blooming 代表取締役
雑貨の仕事塾 主宰
アトリエ 8huit 店主
小さな店づくり、チームワークづくり、雑貨、ライフスタイルなどをテーマにしたエッセイ、コラムなどを執筆する雑貨ジャーナリスト。雑貨ショッププロデュースに加えて、メーカーのモノ作りのアドバイスや百貨店、小売店での雑貨に関連したイベント企画立案、テレビ、雑誌などでも活躍中。
<http://zakkawork.com/>



マツドさんのアトリエ

バイヤーになったときには、卸先への「この商品でお店作りをしませんか」という提案をしている中で、雑貨屋をやりたい人の手伝

「また集まりたいね」 が実現！

4月25日、退職した男性たちの地域での活動を応援する主催講座「輝く男のセカンドステージ」(昨年2月開催)の同窓会をおこない、参加者たちがひさしぶりに集まりました。今回は、調理実習をおこない、食後はお茶を飲みながら、一人ずつ「この講座に参加しようと思ったきっかけ」を話しました。昨年の講座で学んだ「人をひきつける話し方」を駆使して、「働いている間は忙しくて、地域や家庭のことができなかった。これからいろいろな活動に参画



ひさしぶりの再会、話に花が咲きました！

して、いろいろな人と出会いたい。」「今は家で皿を洗う係をやっているが、これから料理の腕をレベルアップさせてふるまいたい。」などと話していました。最後は「また集まりたいね！」でお開きになりました。
セカンドステージでもさらに輝く男を目指して、これからも前向きに活動していけたらいいですね(^^)

主催講座「輝く男のセカンドステージ」は、好評につき今年度は2回開催します。

1回目は終了しましたが、2回目は12月に開催予定です。「広報やちよ」11月1日号にて参加者を募集しますので、ふるってご応募ください。

いきいき活動中

これでエクセルはバッチリ!? 農家の若手女性グループ パソコン研修



参加者の顔は真剣そのもの！

「JA 八千代市フレッシュミズ・^{アンシャンテ}Enchante倶楽部」が、パソコン技術向上のための研修を行いました。アンシャンテは、20~40代の農家の若手女性グループで、どんと祭やトウモロコシ祭などの行事への参加、学習会や交流会の開催など年間を通していろいろな活動を行っています。

今回はエクセルの使い方を学び、キーボードを打つ参加者の顔は真剣そのもの。講師が説明をすると、「へえ、こんな使い方もあるんだ!」と感心しながらパソコンに向かっていました。

15年の努力、結実して 吉田得子日記出版記念会

6月9日、男女共同参画センター支援団体「女性の日記から学ぶ会」が『時代を駆ける 吉田得子日記 1907-1945』の出版を記念し、パーティーを開きました。吉田得子さんの子息から日記を譲り受けて15年、研究し続けた努力が実りました。

記念講演に、元NHKアナウンサーの加賀美幸子さんを迎えお話いただきました。詳細は、9月頃発行の次号にて。

664ページの超大作 ▶



発行：八千代市

男女共同参画課 ☎047-485-7088

男女共同参画センター ☎047-485-6505

住所：八千代市八千代台南 1-11-6

